

◆ 目黒区 ◆

# 中小企業の景況

平成 30 年度第 3・四半期  
(平成 30 年 10~12 月)



# 目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成30年10～12月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成30年12月）	23
4. 特別調査「2019年の経営見通し」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

## 調査の概要

1. 調査時期      平成30年10月～12月期（四半期毎実施）
2. 調査方法      面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	85	85
卸 売 業	24	24
小 売 業	41	39
サ ー ビ ス 業	50	50
建 設 業	33	33
合 計	233	231

調査実施機関    一般社団法人東京都信用金庫協会

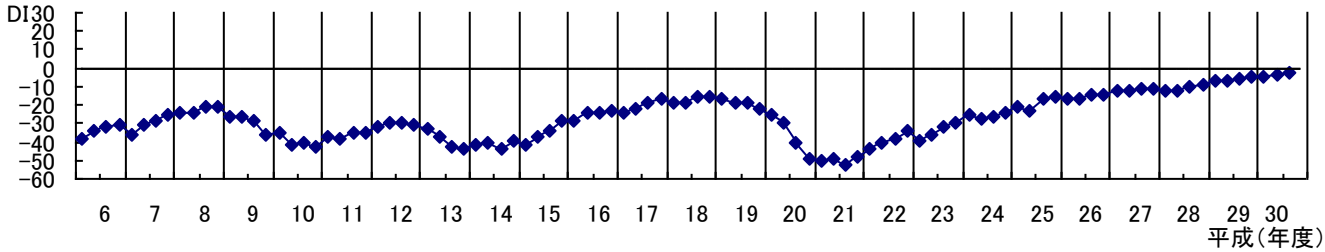
分析実施機関    株式会社東京商工リサーチ

# 1. 都内中小企業の景況（平成30年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況引続き小幅ながら改善 製造業の売上額は増加に転じる ～サービス業の価格が再び上昇～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-2.0（前期は-3.4）と前期に比べ1.4ポイント回復した。業種別に見ると、水面下ながら製造業・小売業でわずかに改善し、製造業の売上額は増加に転じた。

建設業についても前期並の良好感が続いた。来期は回復基調が続く、卸売業で改善度合を強めるも、不動産業での良好感がやや弱まると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-2.8	-0.5	2.3	-0.5	0.0
卸 売 業	-4.2	-5.2	-1.0	-0.2	5.0
小 売 業	-19.6	-16.9	2.7	-16.1	0.8
サ ー ビ ス	-3.7	-3.7	0.0	-2.8	0.9
建 設 業	15.0	16.9	1.9	16.5	-0.4
不 動 産 業	11.3	10.6	-0.7	7.1	-3.5
総 合	-3.4	-2.0	1.4	-1.4	0.6

## <製造業>

業況は前期同様の改善傾向が続いている。売上額は3期ぶりに増加に転じ、受注残も増加が続いている。収益についても減少が弱まっている。価格面では、販売価格の上昇が強まり、原材料価格は前期同様の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は、「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位は前期同様に、「販路を広げる」、「経費を節減する」となっている。

来期の業況は今期同様の好調さが続くともみている。売上額・受注残は、わずかな増加が続く、収益もわずかな減少で推移すると予想している。

## <卸売業>

業況は前期同様の水準で推移した。売上額はわずかな減少で推移し、収益の減少も弱まって持ち直した。価格面では、販売価格・仕入価格ともに前期同様の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は、「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」、重点経営施策の上位2位は前期同様に、「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は水面近くまで改善すると予想している。売上額・収益ともに水面下を脱し、増加に転じると予想している。

## <小売業>

業況はわずかに改善し厳しさが少し緩んだ。売上額・収益は前期並の減少傾向の中でもわずかに改善が見られた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位についても前期同様に、「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くとも予想している。売上額・収益は今期並の減少の中で改善傾向が続くと見ている。

## <サービス業>

業況は前期同様に推移している。売上額の減少が止まり、収益は前期並の減少で推移している。価格面では、料金価格・材料価格ともにわずかに上昇が強まっている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」、重点経営施策の上位2位は、「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期同様の水準で推移すると予想している。売上額は水面下を脱して増加に転じ、収益は減少幅がさらに縮小するとみている。

## <建設業>

業況は前期並の良好感が続いている。売上額・受注残・施工高・収益はいずれも前期同様の増加が続いた。価格面では、請負価格・材料価格ともに前期並の上昇ながらわずかに上昇が強まっている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「人手不足」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位は、「人材を確保する」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は今期並の良好感が続くとも予想している。売上額・収益はいずれも今期同様の増加が続くと予想している。施工高・受注残は続いてきた増加傾向が一服し、わずかに弱まるとみている。

## <不動産業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・収益ともに前期並の増加で推移した。価格面では、販売価格・仕入価格ともに上昇が弱まり、やや落ち着きを見た。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「同業者間の競争の激化」、「商品物件の不足」、重点経営施策の上位2位についても変動なく、「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期よりわずかに好調感が後退すると予想している。売上額・収益についても増加傾向が弱まるとみている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季節調整済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季節調整済D.Iを使用しています。

季節調整とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。